

緑内障 早期発見を

緑色で疾患啓発

失明の原因になる緑内障の早期発見を促そうと、世界緑内障週間(10〜16日)に合わせた「ライトアップ・グリーン運動」の一環で、山陰両県の公共施設など43カ所が緑色の光に照らされている。緑内障は強い近視や高齢といった理由で徐々に視野が狭まる病気。初期の自覚症状がほとんどないという。日本人の失明原因の第1位だが、治療の進歩で早期に見すれば視力は維持できるため、定期的な検査が重要とされる。

ライトアップは日本緑内障学会が2015年にはじめ、今年は国内外約1400カ所、このうち山陰両県では島根が37カ所、鳥取は6カ所で行われている。出雲市大社町日御碕の出雲日御碕灯台も日没後に発光ダイオード(LED)ライトに照らされ、緑色に浮かび上がった。運動の実行委員長を務める島根大医学部眼科学講座の谷戸正樹教授(52)は「ライトアップを通じて緑内障を知ってもらいたい。40歳を超えたら一度、眼科で検査をしてほしい」と話した。(黒沢悠太)



緑色にライトアップされた出雲日御碕灯台＝出雲市大社町日御碕